

山梨県東八代郡豊富村

**平成10年度
村内遺跡発掘調査報告書**

1999

豊富村教育委員会

山梨県東八代郡豊富村

**平成10年度
村内遺跡発掘調査報告書**

1999

豊富村教育委員会

序

豊富村は甲府盆地の南部に位置し、北に笛吹川が流れ、南に御坂山塊が東西に連なり、とても自然に恵まれた村です。また曾根丘陵を中心に古代遺跡が多数存在し、中世の初めにはこの地一帯は甲斐源氏の一族浅利与一公の支配下にありました。その墓塔が大福寺にあり、代々大切に守られてきたため、その遺構は何百年も風雪に耐えながらも、雄健にしてなお威風堂々とその威厳を保っています。

豊富村では近年、シルクの里公園の整備、シルクラインやふるさと農道の村道の建設など、地域活性化促進のために各種の開発が盛んに行われています。また国道140号線沿いの交流促進センターが「道の駅」に指定され、さらなる本村の情報の発信源として、且つ交流の場として期待されております。また民間でも宅地開発や個人住宅の建設など各種の開発が相次いでいるのが現状です。

本報告書は平成10年度に実施した豊富村内における各種開発に伴う埋蔵文化財有無の確認調査の結果をまとめたものです。高部宇山平遺跡では古墳時代中期の溝跡が確認されました。この溝は古墳の周溝と思われ、宇山古墳群内の古墳分布を解明する好資料が見つかりました。また、今までほとんど実態がわからなかった宇山遺跡で古墳時代の須恵器の破片が見つかるなど、各遺跡の状況を把握する上で貴重な発見がありました。

なお今回の調査にあたり、ご指導・ご協力をいただきました地元地権者の方々をはじめ、関係各位に厚く感謝申し上げます。

本報告書が今後、有意義に活用されることを希望いたします。

1999年3月31日

豊富村教育委員会
教育長 萩原保正

例　　言

1. 本書は平成10年度に山梨県東八代郡豊富村内で発掘された遺跡調査の報告書である。
2. 発掘調査は文化庁・山梨県より補助金を受けて、豊富村教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び出土品の整理は、豊富村教育委員会が実施した。
4. 本書における出土品及び記録図面・写真は豊富村教育委員会が保管している。
5. 本報告書の執筆・編集・写真撮影は岡野が行った。
6. 本調査にあたり、山梨県教育庁学術文化財課及び豊富村各区の住民の皆様、地権者の皆様にご指導・ご理解をいただきながら調査を進めることができた。心から謝意を表する次第である。
7. 発掘調査・出土品の整理及び報告書の作成については、次の方々からご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。

(敬称略)

小野正文・森原明廣・高野玄明・中山誠二（山梨県教育庁学術文化財課）、林部光（中道町教育委員会）、野崎進（境川村教育委員会）、伊藤修二（八代町教育委員会）、望月和幸・松本京子（御坂町教育委員会）、小渕忠秋（石和町教育委員会）、瀬田正明・猪股喜彦（一宮町教育委員会）

調　　査　　組　　織

調査主体	豊富村教育委員会
調査担当者	岡野秀典
事務局	萩原保正（教育長）・中込清彦（教育課長）・今井賢（教育係長）・井上妙・柿嶋正宣・中橋紀男・井上陽子
調査・整理	相原ツネ子・有泉つや子・有泉ふくじ・石原喜代の・長田長美・長田春美・
参加者	河野紀久代・小林英子・小林芳次・桜井里子・桜井幸子・高野萬千子・塙田よ志江・萩原定子・村松俊江・渡辺きく江
(敬称略)	

目 次

序

例言・調査組織

月次

第1章 平成10年度の調査概要	1
第2章 代中遺跡の調査	2
第3章 代中遺跡の調査	4
第4章 三枝氏館跡の調査	6
第5章 上野原遺跡の調査	8
第6章 高部字山平遺跡の調査	10
第7章 宇山遺跡の調査	19
第8章 浜川戸遺跡の調査	24
第9章 弥二郎遺跡の調査	27

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図(1/10,000)	2	第19図 調査区位置図(1/10,000)	19
第2図 調査区全体図・土層図	3	第20図 上層図(1)	20
第3図 調査区位置図(1/10,000)	4	第21図 土層図(2)	21
第4図 調査区全体図・土層図	5	第22図 全体図(1)	22
第5図 調査区位置図(1/10,000)	6	第23図 全体図(2)	22
第6図 調査区全体図・土層図	7	第24図 出土土器・石器	23
第7図 調査区位置図(1/10,000)	8	第25図 調査区位置図(1/10,000)	24
第8図 出土土器	9	第26図 土層図	25
第9図 調査区位置図(1/10,000)	10	第27図 全体図	26
第10図 土層図(1)	11	第28図 調査区位置図(1/10,000)	27
第11図 土層図(2)	12	第29図 土層図	28
第12図 土層図(3)	13	第30図 全体図(1)	29
第13図 全体図(1)	14	第31図 全体図(2)	29
第14図 全体図(2)	14	第32図 1号溝	30
第15図 全体図(3)	14	第33図 出土土器	30
第16図 1号溝	15		
第17図 出土土器・石器(1)	17		
第18図 出土土器・石器(2)	18		

写 真 図 版 目 次

- 図版 1 代中遺跡調査前風景（5月調査） 代中遺跡完掘（5月調査）
代中遺跡調査前風景（7月調査） 代中遺跡完掘（7月調査）
三枝氏館跡完掘 上野原遺跡土器出土状況
図版 2 上野原遺跡出土土器 上野原遺跡出土土器
高部宇山平遺跡 1号溝 高部宇山平遺跡 1号溝出土土器
高部宇山平遺跡第3トレンチ 高部宇山平遺跡第7トレンチ
図版 3 宇山遺跡第1トレンチ 宇山遺跡出土須恵器
浜井戸遺跡第1トレンチ 弥二郎遺跡 1号溝
弥二郎遺跡第2トレンチ 弥二郎遺跡 1号溝出土土器

第1章 平成10年度の調査概要

No.	収蔵品名	ふりがな	所在地	コード		調査期間 市町村	調査面積 (m ²)	調査原因	種別	主な時代	主な遺物
				市町村	道路番号						
1	代 中	だいちゅう	山梨県東八代郡豊富村 木原1228-1	県 7	980314	農業用倉庫建設	散布地	縄文・古墳	なし		
2	代 中	だいちゅう	木原1229-1	村 6							
3	三枝氏船跡 さいぐさしづかたあ	と	木原1683-1	県 7	980727	個人住宅建設	散布地	縄文・古墳	なし		
4	上野原	うえのはら	木原1712	村 9	980910	個人住宅建設	散水地	中世	なし		
5	高部字山平	たかべうやまひら	大島居1574地	県 6	981113	農業開拓	散水地	縄文・古墳	なし		
6	宇 山	うやま	高部1702-1地	村 10	~	125	村道ふるさと 農道高部線建設	集落跡	縄文～近世	溝1木	
7	浜井戸	はまいど	大島居3836	県 9	990204	村道ふるさと 農道高部線建設	散布地	縄文・古墳	なし		
8	勝二郎	やじろう	木原4173地	村 3	990215	~	80	村道ふるさと 農道高部線建設	・中近世		
				県 4	990301						
				村 35	990206	~	50	村道ふるさと 農道高部線建設	近世	なし	
				県 22	990222	~	18	村道ふるさと 農道大島居線 建設	先土器～古 墳・中世	溝1本	
				村 15	990223						縄文土器・ 石器・土師 器

第2章 代中遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字代中に所在し、曾根丘陵西側の一角に広がる東西に延びる台地上に立地する。

当遺跡の北縁で農業用倉庫建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は5m²である

平成10年（1998）5月14日 発掘調査を開始・終了

平成10年（1998）5月14日 文化庁に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて2×2.5mの試掘坑を1か所設定して掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは10cm前後である。

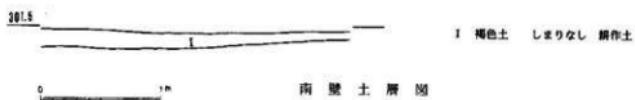
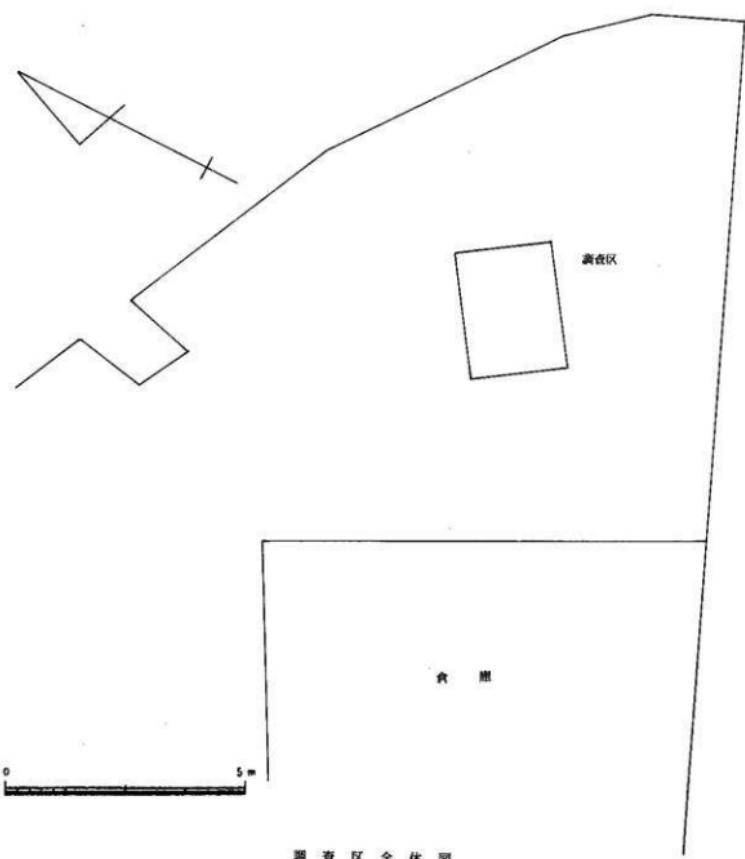
第I層 褐色土（耕作土） 第II層 黄褐色ローム

第3節 まとめ

調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第1図 調査区位置図(1/10,000)



第2図 調査区全体図・土層図

第3章 代中遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字代中に所在し、曾根丘陵西側の一角に広がる東西に延びる台地上に立地する。

当遺跡の東縁で個人住宅建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は5m²である。

平成10年（1998）7月27日 発掘調査を開始・終了

平成10年（1998）7月27日 文化庁に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて2×2.5mの試掘坑を1か所設定して掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは40cm前後である。

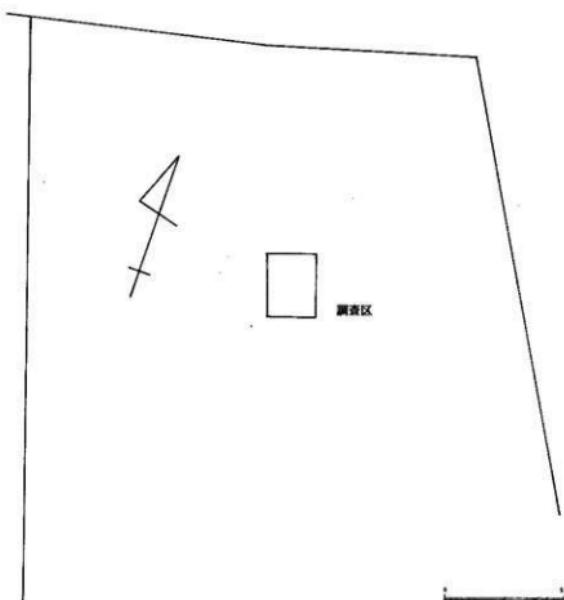
第I層 褐色土（耕作土） 第II層 黄褐色ローム

第3節 まとめ

調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第3図 調査区位置図(1/10,000)



調査区全体図



西壁土層図

第4図 調査区全体図・土層図

第4章 三枝氏館跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字高内に所在し、曾根丘陵の一角である舌状台地の先端部に立地する。

当遺跡内の東端で個人住宅の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は5m²である。

平成10年（1998）9月10日 発掘調査を開始・終了

平成10年（1998）9月10日 文化庁に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて、2×2.5mの試掘坑を1か所設定して、ローム面まで掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは50cmである。

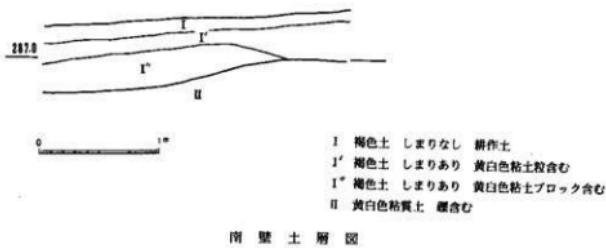
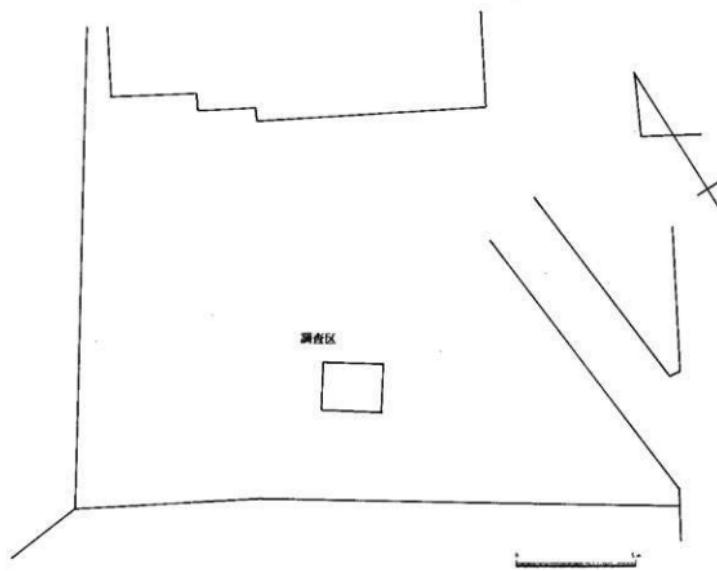
第I層 褐色土（耕作土） 第II層 黄白色粘質土

第3節 まとめ

調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第5図 調査区位置図(1/10,000)



第6図 調査区全体図・土層図

第5章 上野原遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字上野原に所在し、曾根丘陵の一角に広がる台地の頂上部に立地する。当遺跡の中心部の畑地で耕作中に土器が出土したと連絡を受け、試掘調査を実施した。調査面積は5m²である。

平成10年（1998）11月13日 発掘調査を開始・終了、文化庁に発掘報告を提出

平成10年（1998）11月18日 南甲府警察署に遺失物発見届提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は1×5mの耕作坑（ごぼう穴）を利用して土器の取り上げ、遺構の精査を行った。基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは90cm前後である。

第I層 褐色土（耕作土） 第II層 黄褐色ローム

第3節 検出された遺物

1は土師器壺である。欠けているところがほとんどなく、ほぼ完形品である。口径26.0cm、底径14.0cm、器高78.5cmとかなりの大型品である。色調は橙褐色。外面は口縁部が横方向のヘラミガキ、胴部は斜め方向のヘラミガキ、底部付近はハケメ調整、底面に木葉痕が残る。内面は口縁部が横方向のヘラミガキ、頸部・底部はハケメ調整、底部の上方にヘラミガキを施す。

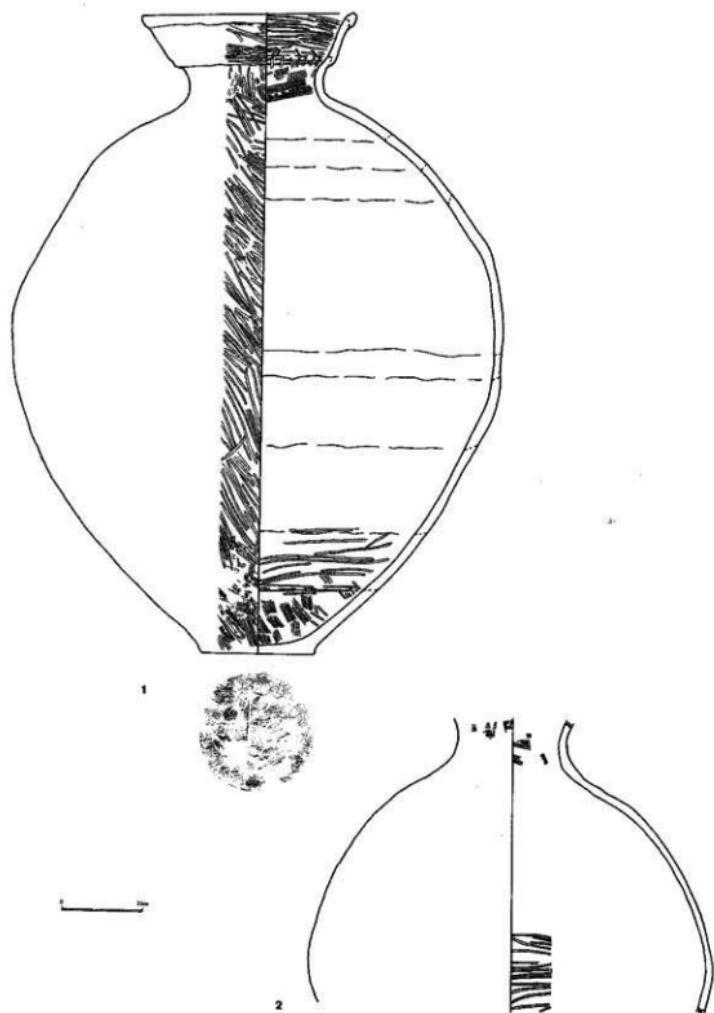
2は土師器壺である。胴部上半部で、残存状況は胴部が半周残り、頸部は全周する。頸部径13.0cm、残存高36.5cm、色調は橙褐色。外面・内面ともに横方向のヘラミガキで、頸部にハケメ調整を行う。

1は横倒しの状態で出土し、2の土器が1の蓋のように覆いかぶさっていた。2の口縁部は正位の向きであった。1の土器の内部からは何も出土していない。

2つの土器が遺構に伴うものかどうかは確認できなかったが、おそらく、土器の出土状況から土坑もしくは溝内に据えられた壺棺と思われる。



第7図 調査区位置図(1/10,000)



第8図 出土土器

第6章 高部宇山平遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村高部字伊勢塚他に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曾根丘陵を形成する宇山平と呼ばれる台地上の北側に立地する。

当遺跡内を縦断して村道建設の計画があり、試掘を実施した。調査面積は125m²である。

平成11年（1999）2月4日 発掘調査を開始

平成11年（1999）2月12日 文化庁に発掘報告を提出

平成11年（1999）2月15日 発掘調査を終了

平成11年（1999）2月19日 南甲府警察署に遺失物発見届提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて2×1～18.5mのトレンチを7か所設定し、それぞれに1～7区と名づけ、ローム面まで掘り下げた。

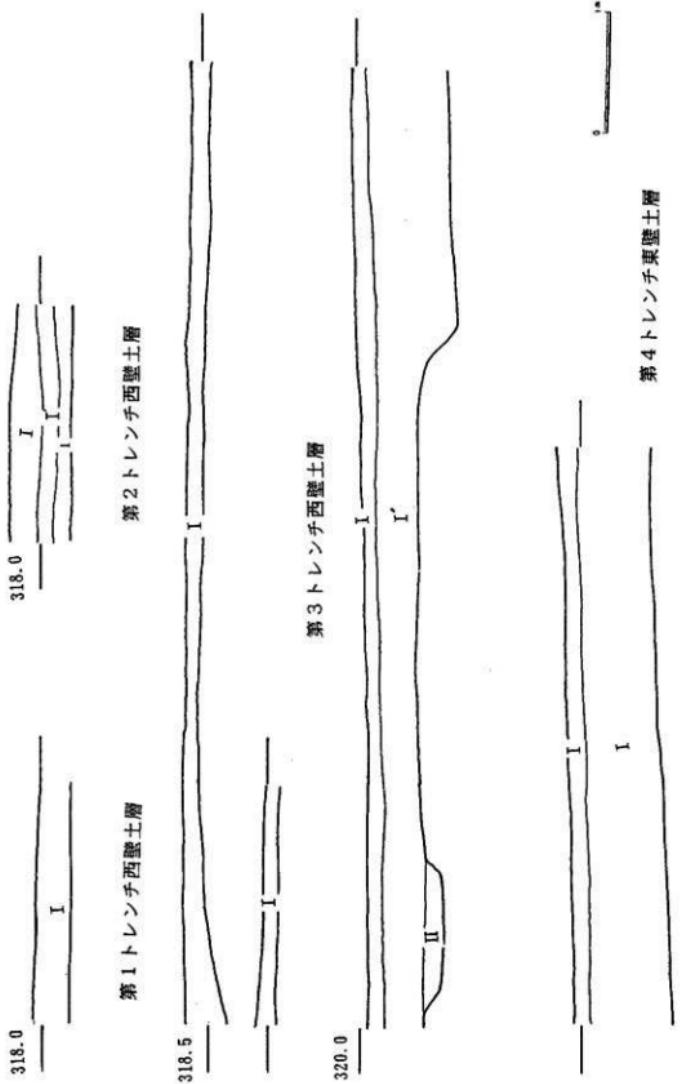
基本層序は次のとおりである。なお、地表から第III層までの深さは15～80cmである。

第I層 褐色土（耕作土） 第II層 暗褐色土 第III層 黄褐色ソフトローム

第IV層 暗黄褐色ハードローム

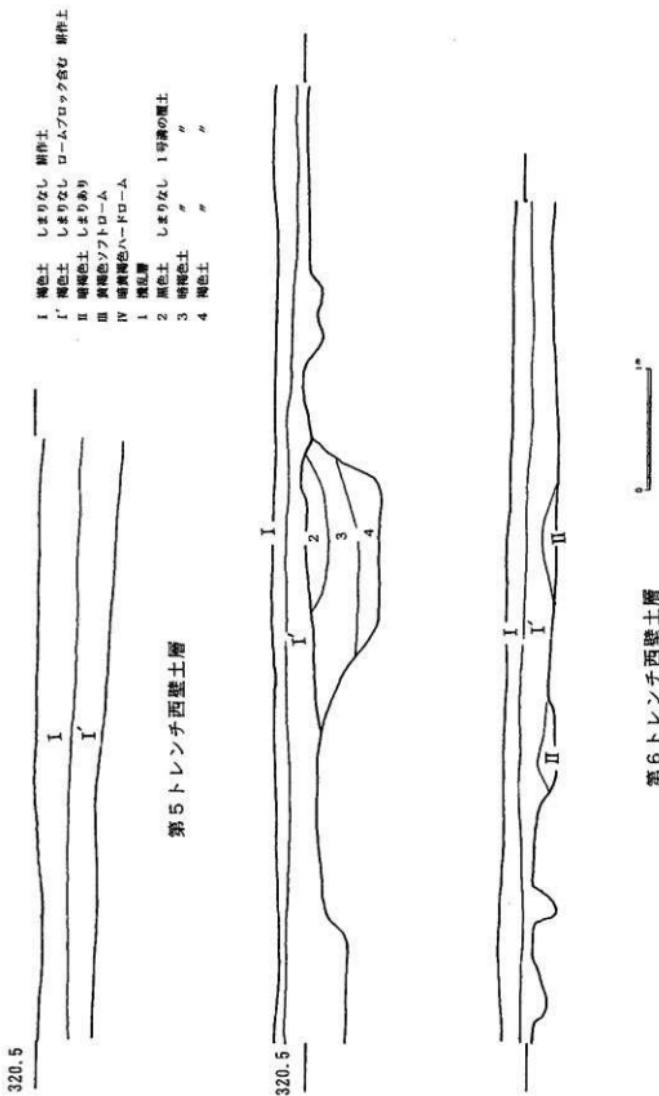


第9図 図 調査区位置図(1/10,000)



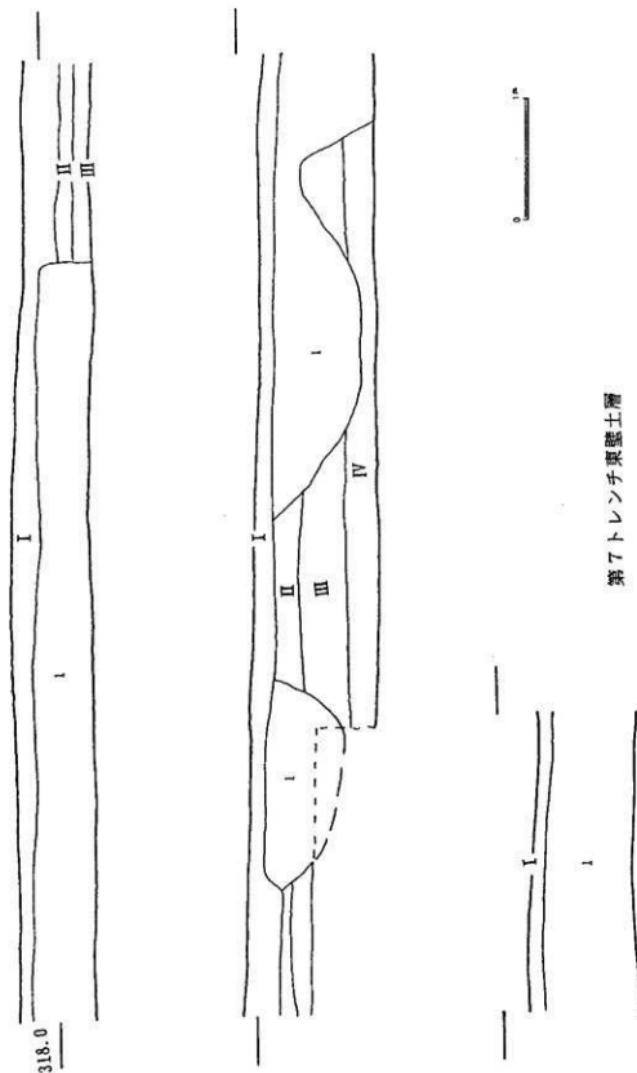
第10図 土層図(1)

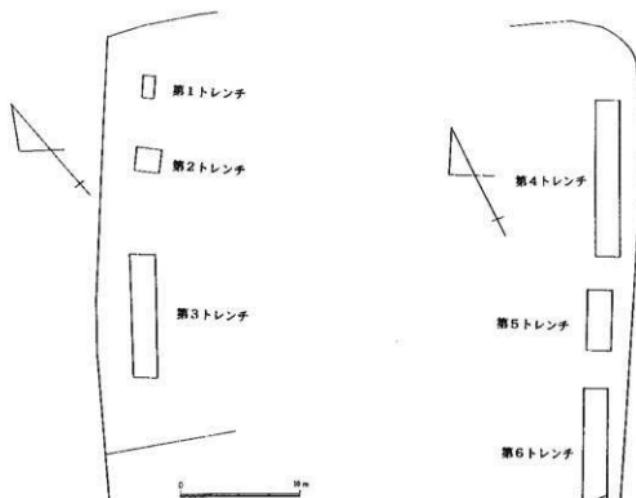
第11図 土層図(2)



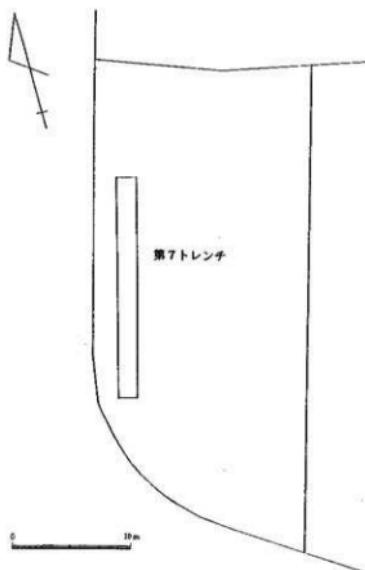
第12図 土層図(3)

第7トレンチ東壁土層





第13図 全体図(1)



第14図 全体図(2)

第15図 全体図(3)

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第1・2・4・5区の遺物（第17図）

1は口唇部に沈線をめぐらす。縄文時代後期前葉の堀之内式。2は沈線文。堀之内式。3は縄文LRに沈線文。堀之内式。4は口唇部に2本の沈線をめぐらす。堀之内式。5は口唇部に沈線をめぐらす。堀之内式。6は口唇部にいくつかの円形刺突を施し、1つは貫通している。堀之内式。7は沈線文。堀之内式。8は沈線文。堀之内式。9は綾杉文。縄文時代中期後半の曾利IV式。10は沈線文。堀之内式。11は沈線区画内に縄文。堀之内式。12は縄文地。堀之内式か。13は凹石。長さ10.6cm、幅10.0cm、厚さ4.9cm。凝灰岩製。14は磨石。長さ10.4cm、幅6.9cm、厚さ3.8cm。安山岩製。15は磨石。長さ11.1cm、幅6.6cm、厚さ4.9cm。安山岩製。16は磨石。残存長4.3cm、幅8.4cm、厚さ4.3cm。玄武岩製。1～3は第1トレンチI層出土。4～8は第2トレンチI層出土。9～15は第4トレンチI層出土。16は第5トレンチI層出土。

(2) 第6区の遺構と遺物（第16・18図）

1号溝

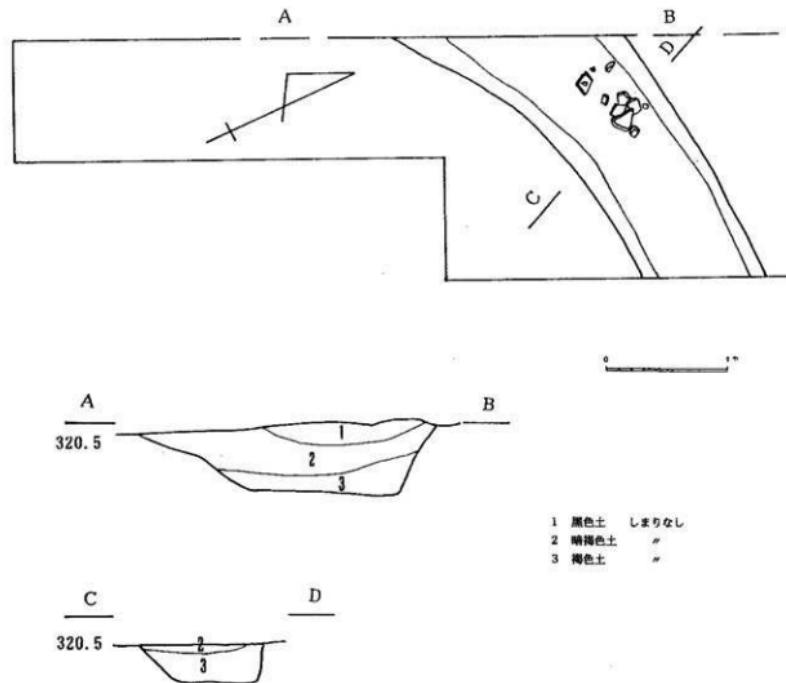
6区の南側で確認され、東西両側は調査区外に延びる。調査区内で若干湾曲する。南北幅90～105cm、深さ約30cmを測る。急な立ち上がりで、床面は平坦である。覆土は黒色土、暗褐色土、褐色土の3層に分けられる。本遺構は溝の走り具合から小円墳の周溝と思われる。

出土遺物は1の古墳時代中期の土師器甕の胴部下半部が出土した。底径9.5cm、残存高15.0cmを測り、外面はヘラナデ調整で一部ハケメ痕が見られる。内面はハケメ調整である。色調は暗褐色である。その他、18は縄文土器の底部で底面に網代痕が残る。20は磨石で、残存長4.5cm、幅7.7cm、厚さ4.6cm。玄武岩製。

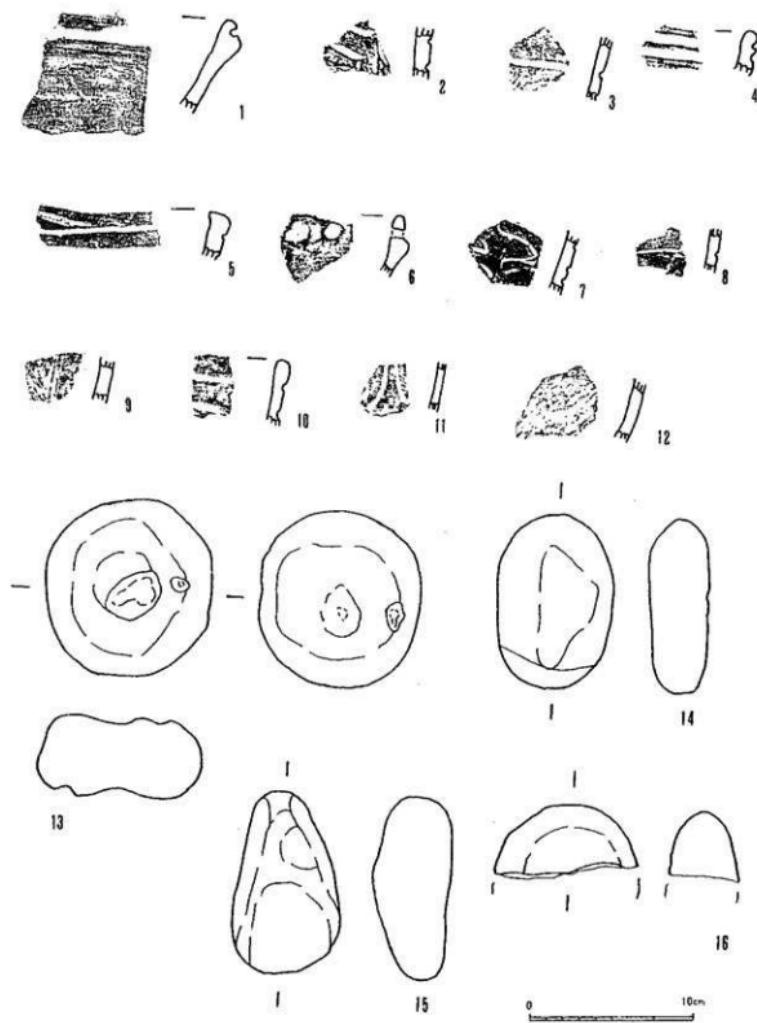
19は細い沈線の下に縄文を施す。堀之内式か。遺構外のI層出土。

第4節まとめ

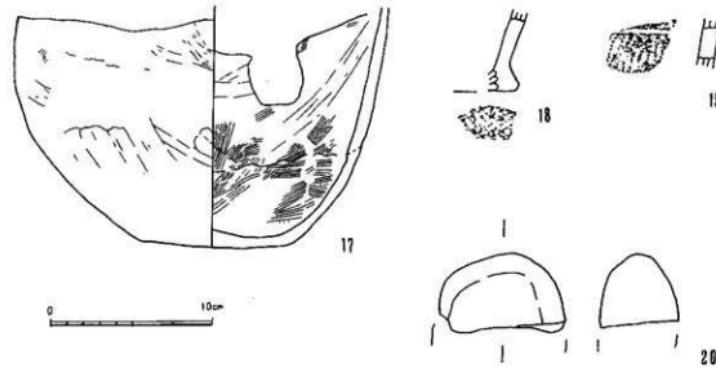
調査の結果、6区より古墳時代中期の小円墳の周溝と思われる溝が1本検出した。本遺跡は宇山平古墳群と大部分が重なる地域である。王塚古墳と伊勢塚古墳以外は近年の耕作により削平されてしまい、その分布状況は、発掘調査で周溝確認をしていかないと分からぬ状況である。今回新たに1か所で古墳跡が確認できたことは宇山平古墳群の古墳分布状況を調査する上で、大きな成果を得た。しかし調査範囲が限られていることから全容の把握までには至らなかつた。



第16図 1号溝



第17図 出土土器・石器(1)



第18図 出土土器・石器(2)

第7章 宇山遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村高部字宇山平に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曾根丘陵を形成する宇山平と呼ばれる台地上の南側に立地する。

当遺跡内の西端に沿って村道建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は80m²である。

平成11年（1999）2月5日 発掘調査を開始

平成11年（1999）2月12日 文化庁に発掘報告を提出

平成11年（1999）3月1日 発掘調査を終了

平成11年（1999）3月4日 南甲府警察署に遺失物発見届提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて、2×18mが1か所、3×1.5mが4か所のトレンチを設定し、それぞれに1～5区と名づけ、ローム面まで掘り下げた。

基本層序は次のとおりである。1区での地表から第V層までの深さは20～40cmである。また2～5区は深くて谷状に落ち込んでいるようで、地表から100cmでIV層上面となり、150cmまで掘り下げてもローム面は確認できなかった。

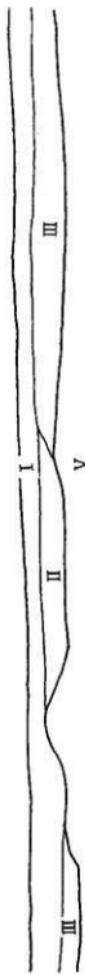
第I層 褐色土（耕作土） 第II層 黒褐色土 第III層 褐色土

第IV層 明褐色土 第V層 黄褐色ローム



第19図 調査区位置図(1/10,000)

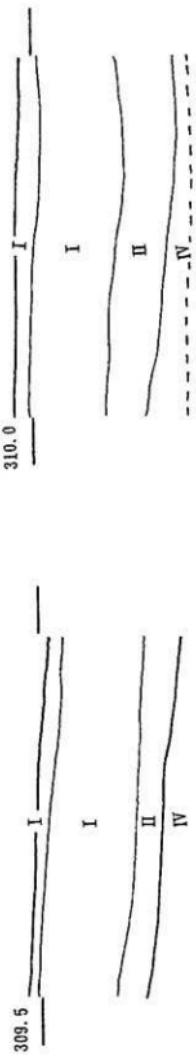
317.0



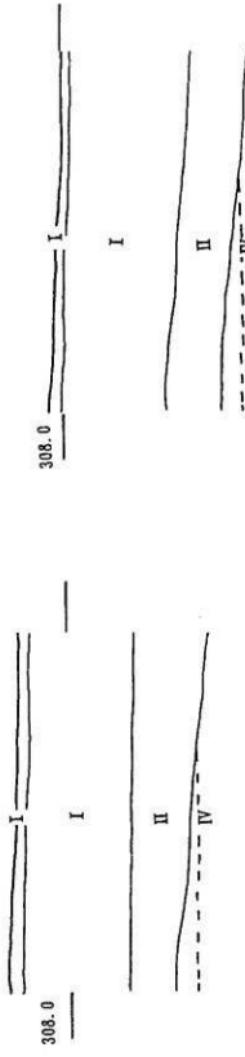
I 棕色土	しまりなし	耕作土
I'	しまりなし	田舎作土
II 黒褐色土	しまりあり	ローム粒含む
III	しまりあまりない	ローム粒多く含む
IV 明褐色土	しまりあり	ローム・ブロック含む
V 黄褐色ローム		

第1 トレンチ西壁土層

第20図 土層図(1)



第3トレンチ東壁土層



第4トレンチ東壁土層

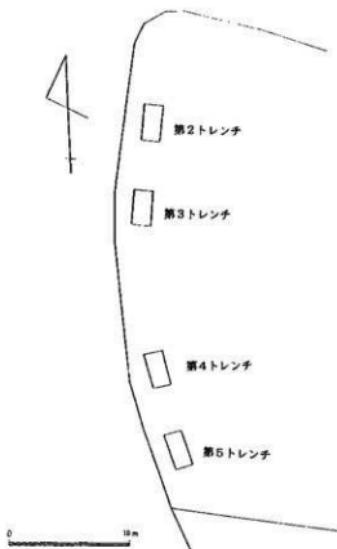


第5トレンチ東壁土層

第2図 土層図(2)



第22図 全体図(1)

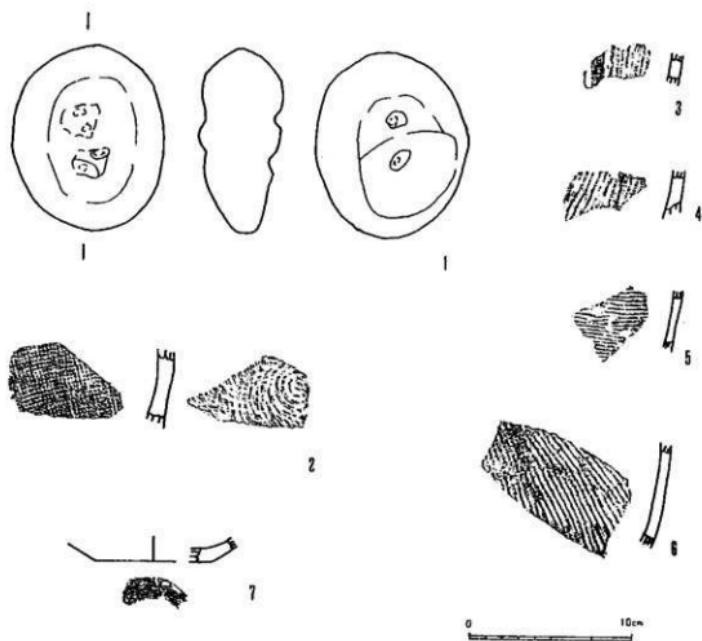


第23図 全体図(2)

第3節 検出された遺物

(1) 第1・3・4・5トレンチの遺物 (第24図)

1は凹石で、玄武岩製。長さ11.2cm、幅9.4cm、厚さ5.0cm。第1トレンチI層出土。2は須恵器甕の破片で、色調は青灰色。外面は格子状のタタキ目、内面は同心円状のタタキ目痕を残す。第3トレンチI層出土。3は条線地。縄文時代中期後半の曾利III式。第4トレンチII層出土。4は須恵器甕の破片で、色調は灰色。外面は平行状のタタキ目が残る。第4トレンチI層出土。5は須恵器甕の破片で、色調は灰色。外面は平行状のタタキ目。第4トレンチI層出土。6は須恵器甕の破片で、色調は灰色。外面は平行状のタタキ目。第5トレンチII層出土。7はかわらけ底部で、底径7.0cm。色調は橙褐色。底部に糸切痕が残る。



第24図 出土土器・石器

第4節 まとめ

調査の結果、遺構は確認できなかったが、I～II層で縄文土器、凹石、古墳時代の須恵器甕の破片が出土した。

第8章 浜井戸遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字浜井戸に所在し、曾根丘陵西側の一角に広がる南西の延びる台地上に立地する。

当遺跡内を縦断して村道建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は50m²である。

平成11年（1999）2月6日 発掘調査を開始

平成11年（1999）2月12日 文化庁に発掘報告を提出

平成11年（1999）2月18日 発掘調査を終了

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて、2×10mを1か所、2×15mを1か所のトレンチを設定して、それぞれに1～2区と名づけ、ローム面まで掘り下げる。

基本層序は次のとおりである。なお、地表から第II層までの深さは25～50cmである。

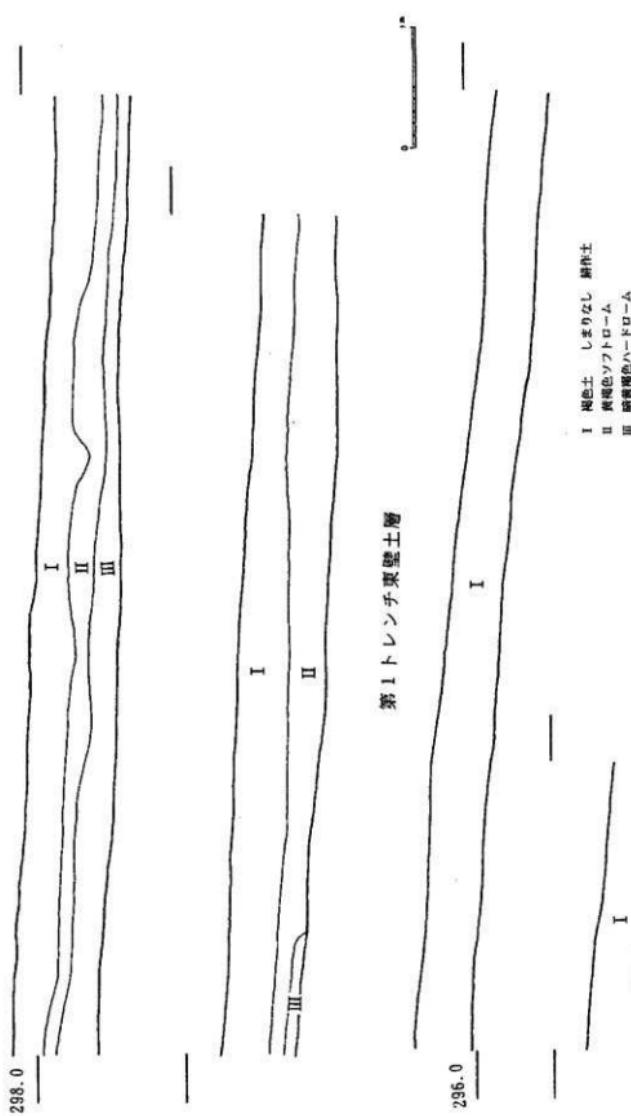
第I層 褐色土（耕作土） 第II層 黄褐色ローム

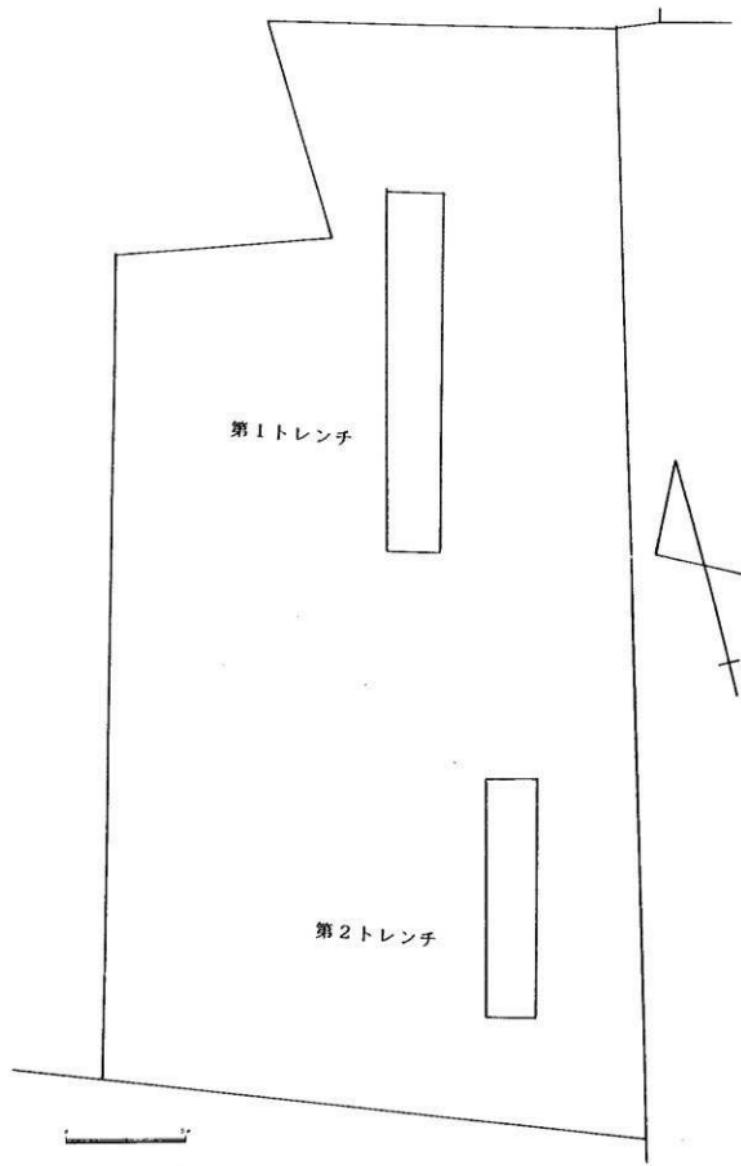
第3節 まとめ

調査の結果、遺構・遺物は出土しなかった。



第25図 調査区位置図(1/10,000)





第27図 全体図

第9章 弥二郎遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村関原及び木原地内に所在し、甲府盆地の南側から東側に連なる曾根丘陵を形成する台地頂部に立地する。

当遺跡内の西端、木原字弥治郎地内で村道建設の計画があり、試掘調査を実施した。調査面積は18m²である。

- 平成11年（1999）2月22日 発掘調査を開始
- 平成11年（1999）2月23日 文化庁に発掘報告を提出
- 平成11年（1999）2月23日 発掘調査を終了
- 平成11年（1999）2月25日 南甲府警察署に遺失物発見届提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は調査対象地に応じて2×2mを2か所、2×5mを1か所のトレンチを設定し、それぞれに1～3区と名づけて、ローム面まで掘り下げる。

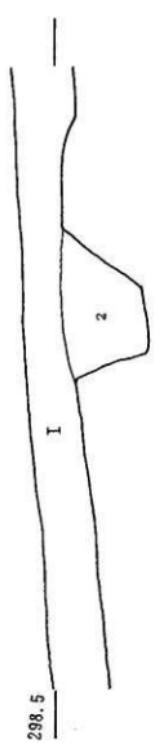
基本層序は次のとおりである。なお、地表から第Ⅲ層までの深さは20～90cmである。

第Ⅰ層 褐色土（耕作土） 第Ⅱ層 暗褐色土 第Ⅲ層 黄褐色ローム

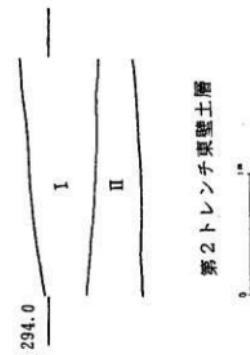


第28図 調査区位置図(1/10,000)

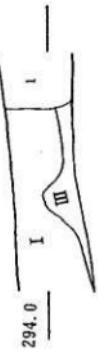
第29図 土層図



第1 レンチ東壁土層

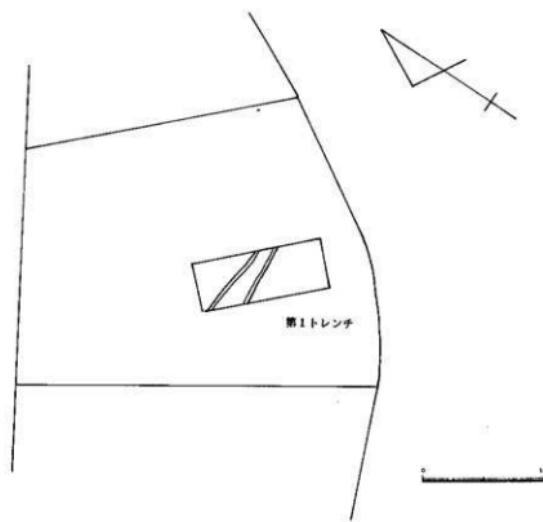


第2 レンチ東壁土層

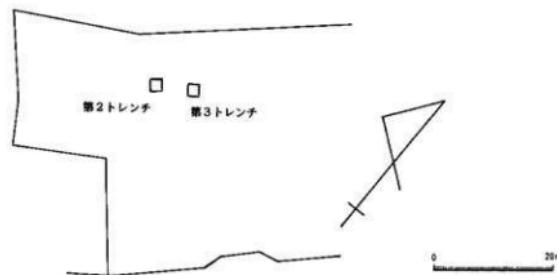


第3 レンチ東壁土層

I 棕色土 しまりなし 粘土
II 黄褐色土 しまりややあり
III 黄褐色ローム
I 深灰層
2 棕色土 しまりややあり 1号層の土



第30図 全体図(1)



第31図 全体図(2)

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第1区の遺構と遺物 (第32・33図)

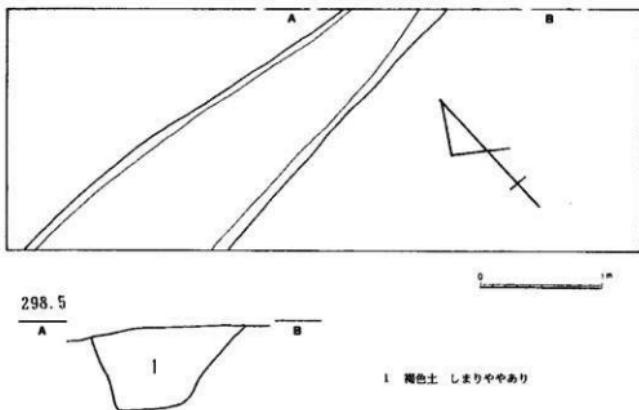
1号溝

1区の中央から西側にかけて、ほぼ東西に走る。東西両側は調査区外に延びる。床面は南北幅60~115cm、深さ65cmを測る。急な立ち上がりで、床面はほぼ平坦である。覆土は褐色土である。

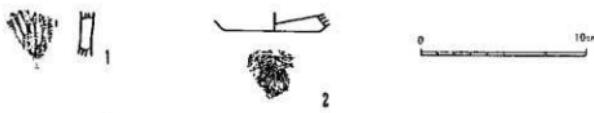
出土遺物は1の縄文土器片が1点と2のようなかわらけ片が2点出土した。

第4節 まとめ

調査の結果、1区から溝が1本検出されたが、出土遺物からそれほど古い時代ではなく、近世以降と思われる。今回の調査地は遺跡西端の傾斜地であり、遺跡の中心はもう少し東側の台地の平坦部にあるのだろう。



第32図 1号溝



第33図 出土土器



代中遺跡調査前風景（5月調査）



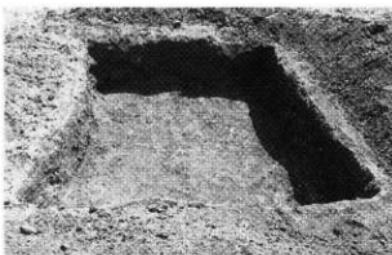
代中遺跡完掘（5月調査）



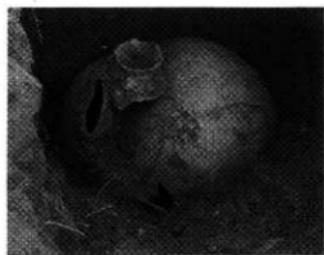
代中遺跡調査前風景（7月調査）



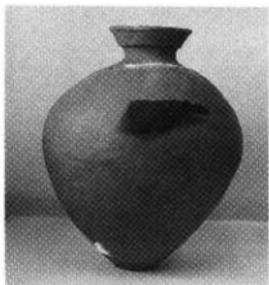
代中遺跡完掘（7月調査）



三枝氏館跡完掘



上野原遺跡土器出土状況



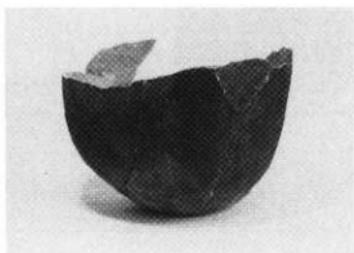
上野原遺跡出土遺物



上野原遺跡出土土器



高部宇山平遺跡 1号溝



高部宇山平遺跡 1号溝 出土土器



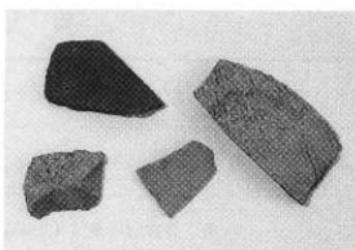
高部宇山平遺跡第3トレンチ



高部宇山平遺跡第7トレンチ



宇山遺跡第1トレンチ



宇山遺跡出土須恵器



浜井戸遺跡第1トレンチ



弥二郎遺跡1号溝



弥二郎遺跡第2トレンチ



弥二郎遺跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	へいせい10ねんどそんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平成10年度村内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	豊富村埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第8集
編著者名	岡野秀典
編集機関	豊富村教育委員会
所在地	〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866 TEL 055-269-2447
発行年月日	1999年3月31日

豊富村埋蔵文化財調査報告第8集

平成10年度村内遺跡発掘調査報告書

発行日 1999年3月31日

発行所 豊富村教育委員会

〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866

印刷所 エンドレス

〒405-0014 山梨県山梨市上石森123

